

## 12月月例労働経済報告のポイント

### 一般経済

- 景気は、悪化している。
  - ・ 輸出は、減少している。生産は、大幅に減少している。
  - ・ 企業収益は、大幅に減少している。設備投資は、減少している。
  - ・ 雇用情勢は、急速に悪化しつつある。
  - ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっているが、足下で弱い動きもみられる。
  
- 先行きについては、当面、悪化が続くとみられ、急速な減産の動きなどが雇用の大幅な調整につながる懸念される。加えて、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動の影響など、景気をさらに下押しするリスクが存在することに留意する必要がある。

### 労働経済

- 労働経済面をみると、雇用情勢は、急速に悪化しつつある。
  - ・ 10月の完全失業率（季節調整値）は3.7%で、2ヶ月連続で前月差で低下（0.3ポイント低下）。
  - ・ 労働力人口（原数値）は6,643万人で、9ヶ月連続で前年同月差で減少（52万人減）。
  - ・ 就業者数（原数値）は6,388万人で、9ヶ月連続で前年同月差で減少（36万人減）。
  - ・ 雇用者数（原数値）は5,542万人で、3ヶ月連続で前年同月差で増加（19万人増）。
  - ・ 有効求人倍率（季節調整値）は、0.80倍（前月差0.04ポイント低下）。
  - ・ 新規求人倍率（季節調整値）は、1.14倍（前月差0.07ポイント低下）。
  - ・ 現金給与総額（原数値・確報）は275,454円で、前年同月比0.1%増。